



支援者や利用者の思いが原動力に

ジム継続を利用者や支援者が後押し



事業名	—		
時期	平成 22 年 3 月	費用	—

協働の内容

退去を余儀なくされたジムを移転再開

安芸郡府中町でボクシングスクールを 16 年間運営していた NPO フリースクール・グロービー。平成 21 年末に急遽、先方の都合によって退去を余儀なくされ、移転先が決まらない中、同法人代表の丸亀恭敬さんはジムの閉鎖も考えた。しかし、継続を望む会員の声と、瀬野川河川敷で自主トレーニングを行う生徒たちの姿に後押しされ、継続を決意した。

移転場所は、支援者である地元不動産会社が探し出して仲介。移転や施設整備に伴う資金的な問題は、会員や有志らの協力も得てクリアし、平成 22 年 3 月、現在地である海田町に移転、ボクシングジムを再開し



▲同法人代表の丸亀恭敬さんとジム内の様子

た。現在、広島市内全域および呉市内から約 40 名が訪れ日々トレーニングに励んでいる。利用者は、小学校 1 年生から 60 歳代までと幅広い年齢層で、年代を超えたスポーツコミュニケーションが行われている状態だ。

協働の背景・経緯

非行少年からも学校からも頼られる存在

「ボクシングスクールという『攻撃』をイメージされ危険なスポーツだと思われがちだが、最大のメリットは『防御』ができるようになること。『ボクシングが強くなる』のではなく、『ボクシングで強くなる』のが目的だ」と丸亀さん。さらに、「縄跳びやランニング、ストレッチなど、筋力アップや体力維持に非常に役立つスポーツ。そして何よりも、挨拶などの礼節を身に付けて社会の規律を学び、心身共に健康になることを目指している」と、信念を語る。

ジムに通うのは、不登校から学校復帰を目指す子どもや、いじめに負けない心身の強化を目的としている人、学校が終わった後の居場所として利用している児童、心の病気を克服し職場復帰を果たそうとしている大人、さらに、健康維持やダイエットのためにトレーニングをしている人など様々だ。

運営スタッフは約 10 名で、ほとんどがボランティア。メンタルトレーニングや指導者講習を受けた保護者も指導にあたり、地域の会員が多いことから、地域ぐるみで子どもを育てるという昔ながらの環境が形成されている。

また、同法人ではジム内の一室に、学校の宿題や課題ができる学習教室も設置。元教員を講師として招き、学校のカリキュラムに沿った個別の学習指導を行ったり、受験対策として推薦方式(一般・クラブ推薦)を視野に入れた個々に合った指導に取り組んでいる。そのほかに、子どもの放課後の安全確保や、保護者が安心して就業できるシステムづくりを目的とした放課後サポートクラブの実施、不登校・ひきこもり・いじめ・非行の予防と改善のための相談業務などにも取り組んでおり、若年層とその保護者の問題解決のための支援も行っている。

フリースクールを始めたのは、学校に馴染まない生徒への対応に困った教員から相談を受けることがある中で、ある教員が更生のために少年を連れて来たのがきっかけだった。「石を投げれば石を投げ返してくるような子どもたち。信頼関係を築かないとコミュニケーションは取れない。学校内での解決が難しいからうちに相談に来るのでは」と語る丸亀さん。学校にとって外部アドバイザー的存在でもあり、いわゆる非行少年からも一目置かれる存在で、ある中学校の校長から、(生徒が暴れないように)卒業式に招待されることもあるほどだ。

協働の成果・展望

ここを巣立って進学や社会復帰を果たす

前ジム時代のフリースクールに通っていた 6 名の生徒は、それぞれスポーツ推薦などで進学していった。ジム移転後の平成 22 年度は、2泊3日の夏合宿から開始。中学生 5 名、小学生 2 名の計 7 名が、アマチュアボクシングの広島県の国体チームと合同練習を行うなど、グロービーならではのフリースクールを始動している。

また、「子どもに限らず大人や中高年でも、社会に出てからのいじめで精神を病むケースがある」と丸亀さんは話す。グロービーでトレーニングを積み自信を付けて社会復帰を果たした人もおり、幅広い世代をサポートしている。

課題

学校側の姿勢とNPOを支援する仕組み

非行少年の更生を含めてグロービーの活動を知ったある中学校の教頭から助言を求められるなど、教育の現場から頼りにされてはいるものの、「フリースクールの生徒を募集するのは難しい」と話す丸亀さん。「不登校などは学校側が公にしないため、実態を把握できない現状が背景にある」と指摘する。今後、どのように教育現場にアプローチしていくのかを模索しているところだ。

また、資金面での課題もある。丸亀さんは現在、シルバー人材センターの嘱託員や土木コンサルタントの会社を掛け持ちしながら法人の維持に腐心している。「事業型NPOへの理解は少なく、法人格を有していても、金融機関から借り入れるのは困難。人間(人材)を育てることにお金を出すというのは少ない」と話している。

名 称	特定非営利活動法人 NPOフリースクール・グロービー		
T E L	082-823-8949	F A X	082-573-8299
代 表 者	丸亀 恭敬	所 在 地	〒736-0063 安芸郡海田町東昭和町 6-13
発 足	平成 3 年 10 月 1 日	設立登記年月日	平成 16 年 5 月 10 日
主 な 活 動 分 野	子どもの健全育成	そ の 他 の 活 動 分 野	社会教育の推進 環境の保全 学術・文化、芸術またはスポーツ振興 前各号への助言、または援助の活動